

2015年11月8日

5区専門委員 中山泰喜

◆1. 名水会の特色

大泉名水会は、大泉学園駅から朝霞方面に向かう通りの、東側の住宅地、東大泉3町目の12番から66番までの地区に居住する人達の中で、共通の専用水道を利用している人々の団体であります。

この専用水道は、昭和16年陸軍予科士官学校が朝霞に移転したとき、その職員のための住宅がこの地区に建設され、そこに水を供給するために造られたものであります(この地区に東京都の水道が引かれたのは、昭和48年「1973年」であります。)

以来70年以上たった今日まで、いろいろ苦労しながらこれを維持し続け、現在も515世帯に上る人達がこの専用水道の施設を大切に利用しているのは、一言で言えば、その水の良さが最大の理由であります。

古来、このあたり一帯は、良質の水に恵まれた所で、大泉という地名も、このことに由来するといわれております。特に当水道部会の持っている深さ125mの2号井戸と深さ232mの3号井戸から汲み上げて給水されている水は飲料水として極めて良質のもので、お茶を入れてもコーヒーを沸かしても、その深い味わいを生かすことが出来、また朝夕に飲むコップ1杯の水は、清涼飲料水では味わえないさわやかさがあります。

この深井戸の地下水は、遠く奥多摩の地下水脈に繋がっており、水量は非常に豊富で、湯水の恐れのないことが、専門家の調査によって明らかになっております。

◆2. 組織と運営の変化

戦後居住者が住宅を買い取ると共に、この水道施設とこれに付随する土地を、大泉住宅共栄会という組織を作って引き取り、その後幾度もの改修を行って今日にいたっております。

この水道を維持して行くためには機械設備の保守に当たる従業員も必要であり、また時には設備の改修や取替えを行わねばならず、その費用を賄う必要があります。また、井戸や建物と、これに付随する土地も正確に登録して確保しなければなりません。そのためには、しっかりした組織が必要であり、この組織の確立に多くの努力が払われました。

幸い会員には知識人も多く、当初は権利の譲渡や、施設の維持管理も順調に滑り

でしたのでありますが、その後次第に慣習的に一部の人の任せきりの状態となり、その弊害が心配されるようになったので、組織の立て直しが図られました。

◆3. 大泉名水会の誕生

昭和35年、大泉住宅共栄会の臨時総会が開かれ、水道事業を町会的な性格の業務から分離して、土地を含む一切の資産を水道部会が引き継ぎ、独立会計として運営することが決議されました。

ここに水道部会が発足し、昭和35年(1960年)以来今日まで55年この形による運営が続いております。

そのシステムは全地域を図1に示す8つの地区にわけ、各地区から選出された2名の委員、計16名で構成される委員会によって運営されております。

委員は任期2年で毎年その半数が交代するが、水道の仕事について全くの素人が多いのは、むしろ当然であります。それでも幾多の試行錯誤を繰り返しつつ、今日まで運営してきたのは、よく検討された規約と、これに基づく民主的な組織による運営が行われてきたからとすることが出来ます。

◆4. 専門委員会の立ち上げ

またこの地域には、水道事業に関係ある専門家がおられ、必要に応じてその知識の提供や助言が得られた事は、部会の運営に大きく寄与しております。昭和36年これらの人達による専門委員会が構成され、委員会の諮問機関として、その運営に側面から協力しております。

◆5. 委員会と専門委員会と一つになって完成した大きな仕事

5.1 配水管の全面交換

配水管取替え工事は区よりの勧めにより、透水性舗装の工事の際の道路の掘削時を利用して昭和59年(1984年)より始められ、平成3年(1991年)度に終わりました。全長4.7kmの大工事でした。

5.2 井戸の掘削

2号井戸は昭和43年(1968年)に、3号井戸は平成10年(1998年)に掘削されました。いずれも名水会主導にて工事が施工されました。

以上大泉名水会の歴史について概要を述べましたが、名水会員の方々の名水会に対する温かいご理解とご支援を切にお願いするものであります。